

「ネジバナ(捩花)」

ラン科ネジバナ属。草丈が15~40cm程度の多年生草木で日当たりの良い野原に生育します。小花を多数細長い花茎に横向きにつけますが、その花が花茎の周りにねじれながらつくことからこの名が付きました。

「ねじればな」、「ねじり草(そう)」とも呼ばれます。
花期は4~9月ですから今が丁度良い頃です。

花の綺麗な野草として人気のあるネジバナは、単独での栽培は非常に難しいことが知られています。ですが、庭の芝生などの端に一株植えておけば種子が飛び環境が良ければ群生させることができます。暑い夏の時期、一株を小鉢に移して玄関などに置けば、品の良いたたずまいが、涼しさを運んでくれることでしょう。

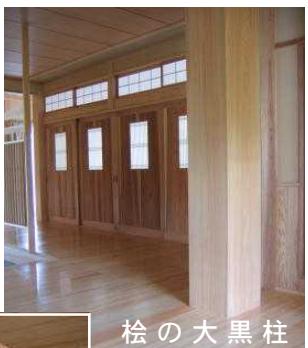


一建落着



M邸(飛田川)

もみじ、欅、クス、杉、…。
「もったいない」と
施主様が大切に
取って置いた木で
入母屋の本格日本住宅を
造り上げました。



W邸(緒方)

業務用流しを取り入れた
機能的なキッチン
その前には、「来客にくつろい
で頂けたら」と
奥様こだわりの広い“土間”的
ダイニングルーム
リビングの床は、杉の無垢材
を“浮造り”しました。



『NSK
アーキテクト』
末廣先生
設計・監理



発行人 川野和男
編集 川野組内
家造り匠の会

☎ 0974-62-2416
✉ tkk22@theia.ocn.ne.jp
✉ http://www6.ocn.ne.jp/~k-kawano



なごみ

『立秋』

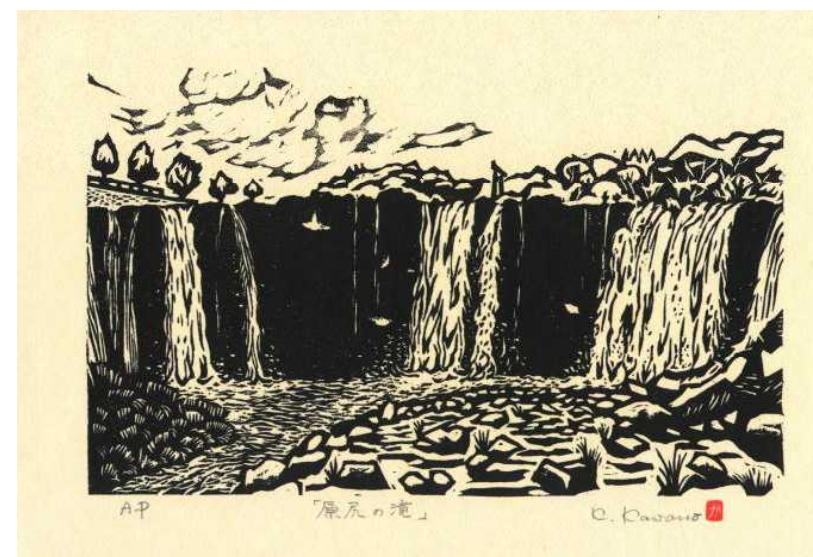
暑さの極みに達した頃 小さな秋が訪れる

空の色 雲の姿 立ち昇る霧 虫の声

夕暮れの風に ふと 冷たさを感じる頃
白萩が 咲き始める

深まる秋に向かって 花や木が
気温を意識しているように 装いを変えていく

季節の移り変わりを 受け止めようとする
そんな住まいと暮らし方 そのゆたかさを 忘れずに居たい



旬の版画

対岸まで 弾け飛ぶ
しぶきがうれしい

季節になりました

水の動きは 自由です

いつまでも
見飽きることは
ありません

ちょっと季になるお話

うなぎ

「おっ、うなぎか。今日は丑の日？」週末の食卓、出されたうなぎを見て尋ねる。「さあ？今年はいつやろう」と奥さん。「問題。何で“土用の丑の日”にうなぎを食べるのでしょうか？」「それ、平賀源内のお話やろ。そんなん誰でも知っちゃるよ」「そっスか」「じゃあなあ、これ知っちゃるな」と、高2の息子も参入「えっと “An eel caught by the tail is only half caught.”(ウナギの尻尾をつかんでも、まだ半分捕っただけだ。)ちゅうんや」「初めて聞いた。どういう意味？」「意味はあ、“仕事が完全に終わるまでは油断するな”最近英語で習ったんや」「ほ～っ、イギリスにもウナギが居るんな？」「違う。ネーデルランドや」「ネーデルランド？普通にオランダやろ。なに気取っちょんのな」「違うよ！諺ばっかりを1枚の画にした『ネーデルランドの諺』っちいう画があるんや。描いたのは、ピーテル・ブリューゲル。『バベルの塔』もこの人で」中座した息子は英語のテキストを持って戻ってきた。「ほら、この画のここん所。男の人がウナギを捕まえようとしよるやろ」「ホントや。でもこれヘビやねえんな。オランダにウナギが居るとは思えんわ」「どんだけ疑り深いんな！eelち書いちゃるやん」「eelがうなぎか」「どうな、勉強になったやろう」「確かに。じゃあ“山の芋うなぎになる”を知っちゃるな？」「聞いたことねえよ。どう言う意味な？」「世の中には、あり得ない事が時には起こる。あんたに当てはめれば、驚異的に成績が伸びることもあるちゅうことや。あんたも…」「さてと、ご馳走さま～」「あ～っ、また逃げた！いい展開やったのに」「お父さん“山の芋うなぎにならず”ともいうよ。それに今日はダメやわ。“土曜の無視の日”やもん」「そうかい、こいつあ一本取られちまった…って落語じゃないんだから！」



ネーデルランドの諺

里山探訪 やまの恵みたち

海にゴンズクという小魚がいますが、山にも同じ名のゴンズクという木が生えています。この木は、用材としての価値はなく、低質木としてみられていますが、その点ではどちらも似た様な物でしょうか。

ただ、この枯れ木には、必ずと言っていい程に良質のキノコが発生します。それは、キクラゲです。昨今、中国産キノコの残留農薬が紙面を賑わせていますが、里山で雨天には傘を広げ、晴れには、縮む事を繰り返しながら成長する様は、真に自然そのものです。



キクラゲ

休景たいむ 「いっぷく」時間の一枚



の試合での一コマです。

試合風景を撮ったのですが、後ろに展示してある戦車も写り込んで、日常では、あり得ない画になってしまいました。

とあるまちのグラウンド。
懸命にボールを追う
少年達の横を、ゴトゴト
地響きを立てて戦車が
通り過ぎていきました。

そんな事、あるわけ無い。
これは、休日に湯布院自衛隊のグラウンドで行われた高校生のソフトボール

知っ得？納得！ こんな所にこんな物

国道57号線から長湯方面へ400m、水路橋の下を通って左側。

事業所の資材置き場奥の方に見えるこの石碑は、岡藩時代の処刑場跡と伝えられる場所にあります。

処刑された人たちの靈を慰めるために建立されたといわれています。

右側の石碑には「南無阿弥陀仏」、左側の石碑には「南無妙法蓮華経」と彫られています。



かつては、田んぼの中に、二柱の石碑がニヨッキリと立っているのが道からもハッキリと見え、通るたびに「何じゃろう、薄気味悪いなあ。」と子供心に怖れたものですが、今では、鬱蒼と繁った草木に隠れてしまい、訪ねて行かなければ目にすることが出来なくなってしまいました。

史跡というものは、こうやってひっそりと消えていくものなのかも。